

中之島6丁目に必要な機能(その1)

(中之島人口構成からの考察)

現状、中之島西エリアはビジネス街であり、人口構成は昼はほぼサラリーマン層で占められ、夜間人口と昼間人口との差が著しい。

夜間人口の流入促進のためには

○住宅機能の導入とともに、住民・オフィスワーカー・来街者の生活を支えるライフサポート機能を強化

- ・健康志向の高まり(中之島遊歩道を利用したランナーの増加など)
→医療連携拠点、健康増進施設の整備
- ・4、5丁目への大学誘致により学生等の若年層の集客効果が期待
→賃貸マンション、スポーツ施設、フィットネス等
- ・多様な人が集い、賑わうエリアへと変貌
→中之島西側中之島西端を親水公園として整備

中之島6丁目に必要な機能(その2)

中之島の既設医療施設

- ・中之島5丁目およびその周辺エリアには「住友病院」「厚生年金病院」「関電病院」「中之島クリニック」という総合病院が集中。
- ・各病院の得意分野として、住友病院は脳・神経系疾患治療、厚生年金病院は筋骨格系疾患治療、関電病院は糖尿病治療、人間ドック専門の中之島クリニックはPET等のがん検診。
- ・さらに高度医療機関が加わり病院間の連携を図れば、中之島は競争力のある医療施設集積エリアとなると想定。

中之島医療連携構想(案)

- ・関西地域では、既に神戸医療産業都市や大阪府りんくうタウンなどで医療ツーリズム※をまちづくりの目玉にしている拠点が存在する。
- ・中之島は関西圏の各拠点で進みつつある医療ツーリズムを補完するエリアとして、中之島に陽子線治療を専門とするような特殊医療機関が加わり周辺エリア内の病院間の医療連携を目指すこともまちづくり策の1つとなる。

(※参考)

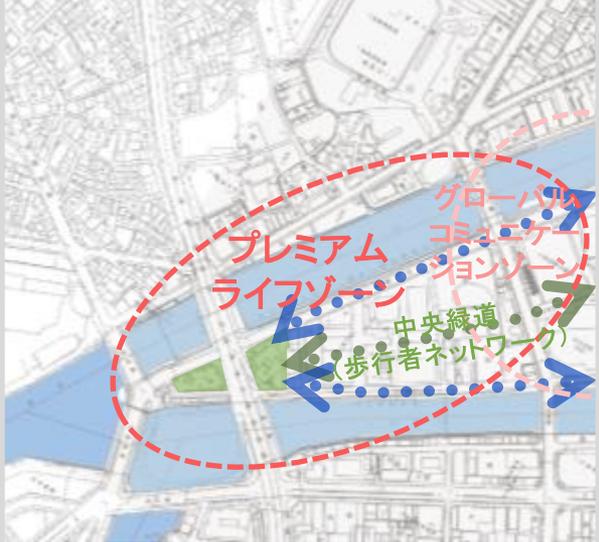
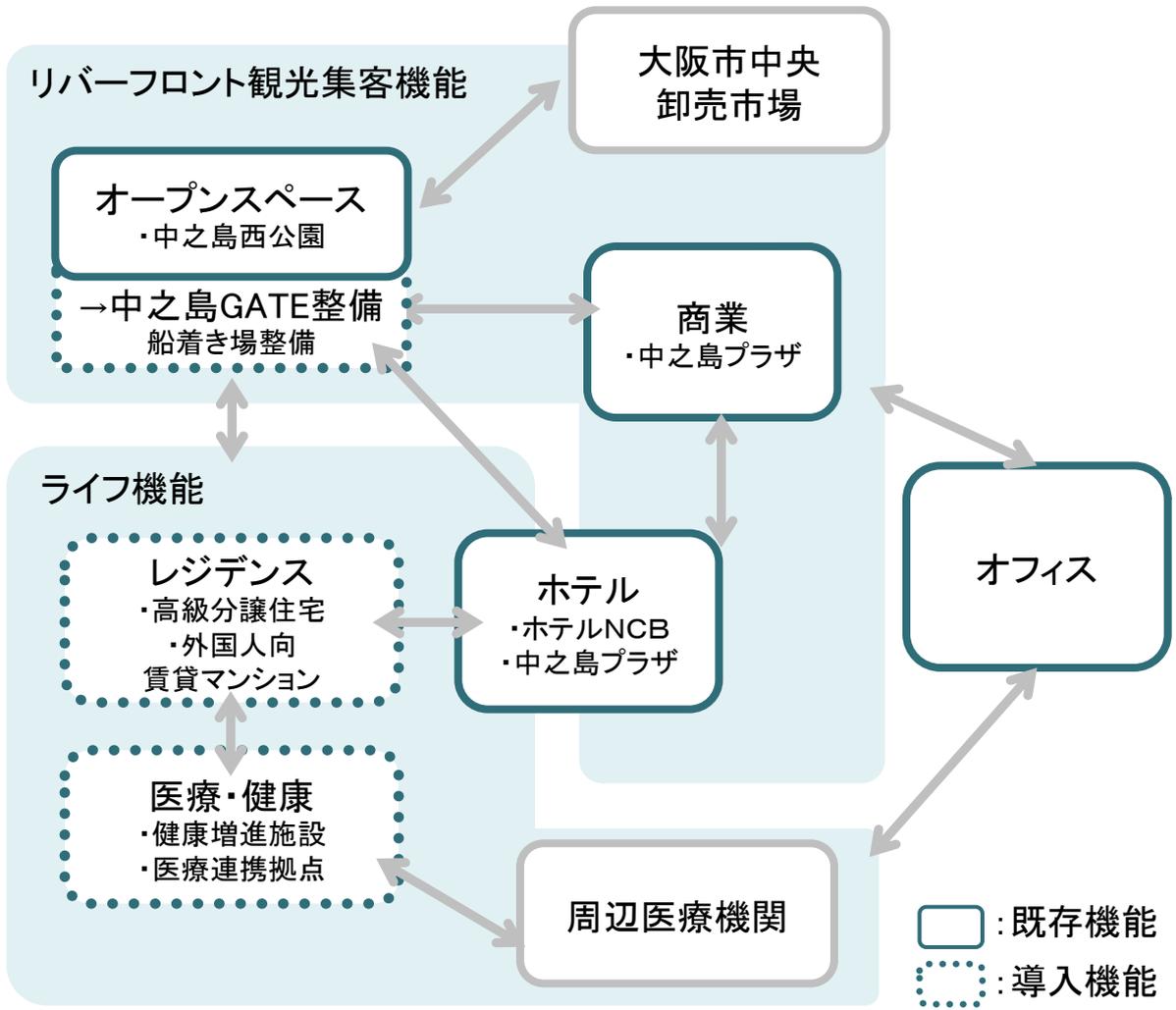
- ・医療ツーリズムとは、先進工業国や途上国富裕層の患者が他国へ渡航し、安い手術代や投薬費、高度医療技術、臓器移植、健康診断などの医療を受けること。
- ・渡航先には医療技術が優れ医療費が安いインドをはじめ、シンガポール、タイ、マレーシア、メキシコなどが多く選ばれている。
- ・日本が医療費の安い他のアジア諸国に対して医療ツーリズムにおける競争力を持つには、高度医療技術などの付加価値で差別化を図る必要がある。

中之島6丁目のまちづくり案

コンセプト:プレミアムライフゾーン

中之島の西端ゲートにおいて働く・住まう・憩う・楽しむという多様なライフスタイルが享受できるプレミアムライフゾーンを形成

○導入機能概念図



- ・都市魅力戦略会議の重点取り組みである中之島ゲートの中之島西側中之島西端の剣先シンボル化(親水公園として整備)
- ・中之島の課題である、夜間人口の流入促進のための住宅機能を導入
- ・住民・オフィスワーカー・来街者の生活を支えるライフサポート機能を強化
- ・その一案として周辺医療機関と連携した医療連携拠点や健康増進施設(スポーツ施設・フィットネスなど)を導入
- ・中之島線の延伸・船着場整備によりアクセス向上をはかる
- ・大阪市中央卸売市場と連携し観光集客をはかる

官民協働の必要性

(現状)

- ・今後の中之島における開発は3丁目の朝日新聞ビル・大阪朝日ビル建替計画を一つの契機として、順次西側へと段階的に開発が進むことが想定される

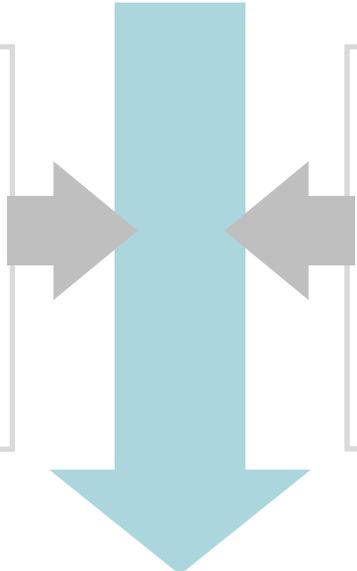
- ・「グランドデザイン・大阪」において、エリア推進協議会による官民協働による推進体制が府市にて位置づけられた

(懸案事項)

- ・4・5丁目においては周辺開発に影響を及ぼす大規模低未利用公有地が存在
(4丁目市有地: 中之島ミュージアムアイランド構想(近代美術館計画)検討中
5丁目市有地: H25年度中に売却予定)

(懸案事項)

- ・都市再生に寄与する導入機能(MICE、学術・教育、文化施設等)に関して官民協働により議論し決めていく必要がある



官民協働の協議会を設置し、まちづくり体制を確立する必要がある

中之島まちづくり構想の実現に向けた推進イメージ

官民連携をより強化し「中之島まちづくり構想」の実現に向けて協働していく

※第1回「グランドデザイン・大阪」推進会議における推進体制を参考に作成

